

高齢者・市民のふれあいの場：憩い、語らい、自己表現、生涯学習...、「街かどサロンふれあい」

小 矢 部 商 工 会

機関名	小矢部商工会		
所在地	富山県小矢部市八和町5-15		
電話番号	0766-67-0756		
地域概要	(1)管内人口 34千人	(2)管内商店街数 3商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 46商店	
	(3)空店舗率 15.2%	(4)大型店空き店舗数 0	
	協同組合石動銀座商栄会		
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（高齢者等交流施設）

- ・市民ギャラリー
- ・イベント（夜祭等）の開催

総事業費 1,926千円

【事業実施内容】

1. 背景

小矢部市の中心商店街では、モータリゼーションの進展による都市間競争の激化・ショッピングセンターや公共施設の郊外化等にもなあって以前の賑わいが見られない状況となっていた。一方、小矢部市では人口の著しい減少と高齢化の進展が顕著にみられた。

このような背景と状況のもと、平成13年度に「TMO構想策定事業」、平成14年度に「まちづくり計画等策定事業」に取り組んだ成果を踏まえて、平成15年度「コミュニティ施設活用商店街活性化事業」に取り組み、中心商店街の中にある空き店舗を利用し「街かどサロン」を11月16日にオープンした。本事業は15年度に続く継続事業である。

(1) 過去の事業の内容

① 「TMO構想策定事業」(H13年度)

TMO構想の基本コンセプトは、「出会い、ふれあい、歴史と人情の街づくり」とした。中心商店街で、高齢者や観光客が街と出会い、会話し、心が触れ合う、人間性豊かな商業空間へと変革することが求められており、「高齢者に楽しい、やさしい街づく



小矢部市の位置（小矢部商工会 HP より）

り」が提唱された。そして、TMO構想の事業の中に「高齢者街かどサロンの整備」「街かどギャラリーの整備」「世代交流センターの整備」「空き店舗活用イベント事業」が盛り込まれた。

②「まちづくり計画等策定事業」(H14年度)

この事業では、TMO構想に盛り込まれた事業をより具体的に計画策定するため、高齢者や市民にヒアリング・アンケート調査を行った。調査結果を踏まえ、「街かどサロン」の機能・役割・運営等を計画策定した。

③「コミュニティ施設活用事業」(H15年度)

この事業では、商店街の空き店舗を利用し、核となるコミュニティ施設(街かどサロン)を整備した。高齢者等が気軽に立ち寄れる交流の場・生き甲斐づくりの拠点となり、商店街に賑わいを創出することを目的として取り組んだ。

(2) 16年度事業

15年度までの事業に引き続き、商店街や地域住民などの交流を一層促進し、高齢者等の日常生活を支えるとともに商店街に賑わいを創出し、高齢化社会に対応できる商店街づくりを目指し、地域住民の多様なニーズに応じるコミュニティ施設を運営すべく、以下の事業を展開した。

2. 事業概要

自主的な「イベントや趣味活動」の企画は、ボランティアスタッフ・商店街などにアイデアを出してもらい、自由度の高い運営を行っていくこととした。高齢者や世代間を超え、市民が楽しく「街かどサロンふれあい」と関わっていける事業や仕組み作りを目指した。

商店街で繰り広げられる「夏の夜店まつり」「火牛まつり」に呼応した来館者へのサービス提供、ボランティアスタッフによる接客サービス(話し相手)や喫茶サービス、趣味講座、ギャラリー展示、イベントなど、多くの市民・商店・商店街が関わりあえる事業を展開し、中心商店街の核としてのコミュニティ機能の強化を図った。

(1) 施設の概要

施設名 おやべ街かどサロンふれあい(オープン:平成15年11月16日)



「街かどサロンふれあい」内部 小矢部商工会HPより

小 矢 部 商 工 会

設置場所 富山県小矢部市石動町3番2号 (旧 おもちや店)

店舗面積 1階 20.5坪 2階 19.6坪

利用時間 9:30から18:00まで

休館日 毎週月曜日、12月29日から翌年の1月3日まで

施設の内容

階	スペース	利用内容
1階	ギャラリースペース、作品展示コーナー 情報掲示板スペース、パソコンコーナー 休憩スペース、和室スペース(6畳)	各種展示 インターネット
2階	多目的スペース(29㎡)、和室スペース(9 畳)、キッチンルーム(約6㎡)	各種展示、・講習会 会 議、・各種趣味の会 料理教室、 各種教養講座

(2) 憩いや語らいの場の提供

地域住民(高齢者、消費者など)の方のふれあいの場また商店街の休憩場所として、お茶のサービス、語らい、作品展示、情報提供などソフトの面からの充実を図った。

・ 来館者数の実績

平成15年度 (平成15年11月16日(オープン日)～平成16年3月31日)

月	開館日数 (日)	来館者数(人)			1日平均
		男性	女性		
11月	14	532	143	259	30.0
12月	24	486	168	318	20.3
1月	23	381	145	236	16.6
2月	25	551	179	372	22.0
3月	26	560	140	420	21.5
計	112	2,510	840	1,670	22.4

注) 11月16日 オープンイベント

平成16年度 (平成16年4月1日～平成17年3月31日)

月	開館日数 (日)	来館者数(人)			1日平均
		男性	女性		
4月	26	731	208	523	28.1
5月	26	758	225	533	29.2
6月	26	776	187	589	29.8
7月	27	1,857	619	1,238	68.8
8月	25	877	255	622	35.1
9月	26	891	245	646	34.3
10月	26	736	211	525	28.3
11月	25	927	338	589	37.1
12月	24	408	136	272	17.0
1月	24	739	241	498	30.8
2月	24	297	111	186	12.4
3月	27	554	188	366	20.5
計	306	9,551	2,964	6,587	31.2

注) ・7月28日～30日石動夏の夜店祭り、・7月31日 源平火牛まつり、・11月3日 賑わい市(オ

オープン周年記念イベント)、・1月6日～10日 石動銀座商栄会大売出し(ガラポン)抽選会
(3) 自己表現の場の提供

ギャラリースペース・展示コーナーに高齢者、趣味の会、生徒などの作品を展示し市民ギャラリーとして、またサークル活動の成果発表など自己表現の場として、広く利用していただいた。



生涯学習の場の提供～カメラづくり～

(4) 生涯学習の場の提供

高齢者や地域住民などが趣味を通じて交流し合い、生き甲斐づくりの場として開放するとともに作った作品を街かどサロンのギャラリーコーナーに展示し、発表の場として活用した。

(5) 健康保持・増進の場の提供

健康保持・食生活の改善・健康料理の実践、パネル、ポスター、パンフレットなどを置き、また介護用品の展示、健康や介護の情報提供など健康づくりに役立ててもらった。

(6) 住宅相談会の開設

高齢者等の快適な生活を支援するため住宅相談会を開設し来館者の利便を図る等行った。

(7) 「夏の夜店祭り」「源平火牛まつり」に呼応したサービスの提供

商店街通りで繰り広げられる「夏の夜店まつり」「火牛まつり」に呼応し、ふれあいグループ(ボランティアスタッフ)による「まつり」協賛サービスメニューで来館者へのサービスをより積極的に提供し商店街に賑わいを創出し商店街の活性化に繋げた。



火牛まつり

駅前商店街と越前町商店街が毎年街かどサロン「ふれあい」前通り一角にステージを組みいろいろなイベントを開催した。

(8) 「賑やか市」(オープン1周年記念イベント)の開催

街かどサロンのPRと商店街に賑わいを創出するとともに「街かどサロンふれあい」オープン1周年記念の意味合いを込めた「賑わい市」を開催した。

(9) 「セネガル展」の開催

「街かどサロンふれあい」店長が青年海外協力隊として2001年7月から2年間、セネガル共和国で植林管理の指導を行ってきた体験を通して、セネガルの豊かな民族性などを伝えるため、「セネガル展」を開催した。

(10) 「街かどサロン ふれあい」のPR活動

新聞折込みチラシ、ケーブルテレビ取材、おやべ商工会報への掲載、また「街かどサロンふれあい」パンフレットを公共施設などに置くなど、あらゆる機会を捉え「街

小 矢 部 商 工 会

かどサロンふれあい」をPRした。

(11) 「街かどサロン ふれあい」と生徒や子供たちの交流活動

「街かどサロン」をオープンした後、子供たちが手作りした「街かどサロン」のチラシを各家庭へ手配りし、PR活動を積極的に行った。

【 効 果 】

1. 商店街認知度

今までの空き店舗がコミュニティ施設（街かどサロン）となり、駅前中心商店街の景観が大変改善され、商店街のイメージアップに繋がり、商店及び商店街をPRすることができた。また、商店街の方が顧客とのコミュニケーションが深まったと感じており、商店街と消費者を結ぶ「話題性」を提供することができた。

2. 来街者の行動

買い物帰りなどに街かどサロンに立ち寄るお客が増えた。また子供たちが、自らのアイデアで「街かどサロン」を舞台として交流活動を展開し地域住民との一体感を育むことができた。

3. 住民生活の利便性への寄与

トイレ、交流・会合・休息の場、ギャラリーなどが設置できたことによって、商店・地域住民（高齢者から子供まで）が気楽に利用することができ、また市民活動の会議室としても活用でき、住民生活の利便性の向上を図ることができた。また、高齢者・趣味の会・生徒の自作品の展示、健康・介護用品の展示、健康相談・住宅相談会の開催等により、地域住民の生き甲斐づくり、生活の快適さを支援することができた。

4. 商店街の集客力向上

「街かどサロン」を利用して商店街のイベント・大売出しなどの情報を提供し、PRに寄与した。また商店街の大売出し抽選会・交換会を、街かどサロンを会場として活用することで、集客効果を一段と高めることができた。また、「賑わい市」と商店街の協賛イベントとの相乗効果によって、広範囲からの集客があり、商店街に賑わいと販促効果を高めた。また商店街路上で繰り広げられる「祭（夏の夜店祭り、源平火牛まつり）」と呼応し、来館者へのサービス提供（ボランティアスタッフによる模擬店等）により、商店街の活性化と地域住民の交流を促進することができた。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

事業を継続していくための費用をいかに確保していくかが一番重要な課題である。今後この課題に商工会、行政、商店街などが一丸となって検討を重ねる必要がある。

2. 人的体制

ボランティアスタッフ、商店街、関係機関と連携して事業展開するために、人的体制を

より一層整えることが必要である。

3. ソフト面の工夫

地域住民の交流の場・活動の場・生き甲斐づくりの拠点として開放し、商店街の中のコミュニティ施設としてその機能を一層強化する必要がある、ソフト面からの工夫が今後ますます重要となる。また難しいことではあるが、遠方の地域住民にも来館できるよう市バスの活用を促したい。

4. 回遊性の向上

高齢者等と子供の交流の場を街かどサロンが提供することで商店街へ子供の来街を促し、商店街活性化のきっかけ作りを行うことが必要である。また来館者が商店街への回遊性を高め、商店街と来館者の共生関係を生み出すことが商店街活性化につながるものと考えられる。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

ボランティアスタッフのような人材の発掘・育成が絶対必要でこの事業の成果を分けるほど重要な要因となる。小学校、高校など教育機関、老人生きがいセンターなど関係団体の協力なども大切なことである。

【 関 連 U R L 】

小矢部商工会 <http://www.shokoren-toyama.or.jp/~oyabe/>